

令和3・4年度 文部科学省 「人権教育総合推進地域事業」
令和5年度 鹿児島県教育委員会 「人権教育開発事業」
始良市立山田中学校 研究公開

(令和5年11月9日公開)

1 研究主題

夢や希望をもち、自他共に認め合う心を育てる人権教育の推進
～学校・家庭・地域の連携を通して～

2 研究発表

始良市立山田中学校は、令和3年度から2年間、文部科学省「人権教育総合推進地域事業」指定校として、また、本年度は県教育委員会「人権教育開発事業」指定校として、校内人権教育の充実及び小・中連携による9か年を通じた人権教育の充実を図ってきました。併せて、家庭、地域社会が一体となった人権教育の総合的な取組を推進してきました。



【研修係による研究発表】

研究公開全体会Ⅰでは、人権尊重の視点に基づいた「校内人権教育の充実」や「小・中連携の充実」、「家庭や地域との連携の充実」による人権教育における資質・能力の向上と自他を共に認め合うことのできる生徒の育成のための具体的な取組について紹介されました。研究内容、具体的な取組は、以下のとおりです。

(1) 校内人権教育の充実

- ・ 人権に配慮した授業づくり、学校環境の整備
- ・ 人の生き方に触れ、地域と共に直接的に学ぶ人権教育研修・講演会の実施
- ・ 各種人権課題についての全校学習（ユニット学習）

(2) 小・中連携の充実

- ・ 年間を通じた山田中学校ブロック（3小学校、1中学校）の継続的な連携
- ・ 9か年を通じたカリキュラムの取組



(3) 家庭や地域との連携の充実

- ・ 校内「人権掲示板」や学校便り「人権コーナー」による情報発信・啓発活動
- ・ 人権教育総合推進会議（学校、家庭、地域、教育委員会による意見交換）

【人権教育総合推進会議】

3 公開授業

全学年 総合的な学習の時間「みんなも私もみんな大切 思いやりあふれる山田をめざして」

山田中学校では、小規模校の特性を生かし、全校生徒が一斉に参加する学習形態の授業に取り組んできました。また、地域コミュニティの特性を生かし、学習する人権課題や学習内容によっては保護者や地域住民の方にも参加していただくなど、学校と地域が一体となった教育活動を行ってきました。



【生徒・保護者・地域による話し合い】

公開授業で指導者の井尻教諭は、授業に参加した生徒、保護者、地域の方々と、これまでの学習内容を振り返るとともに、差別のない社会の実現には、地域で推進するためのよりどころとなる「山田の人権宣言」が必要であることを意識してもらいました。その後、生徒をグループリーダーとした話し合いへと展開させていきました。各グループリーダー（生徒）は、参加者から出された「山田の人権宣言」に盛り込みたい言葉やフレーズ、それらに込めた思いを上手にまとめていきました。

4 研究協議

分科会では参加者が9つのグループに分かれ、3年間の取組や公開授業について、活発な意見交換が行われました。

人権教育の推進に当たって、「学校の取組を保護者や地域に積極的に情報発信するとともに、学校の教育活動に参加してもらうなどの先進的な取組がとても参考になった。」などの意見が出されました。

なお、参加者の感想の一部を下記に記載します。



【グループによる協議】

【生徒の振り返り・感想の記述】

- こうやってみんなで話し合った意見を、最初に自分で実行したいと思った。
- 子供たちの意見もすごかったが、大人たちの意見はもっとすごく視野が広いと感じた。僕たちはもっと思考力を高めるべきだと思った。
- これまでの人権学習では、「相手を認める、他者を認める」という意見は出てきたけれど、「自分を認める、自分を愛す」という意見を聞いて、確かに自分をよく知っていないと、人権問題を解決できないのかなと思った。

【地域・保護者の感想の記述】

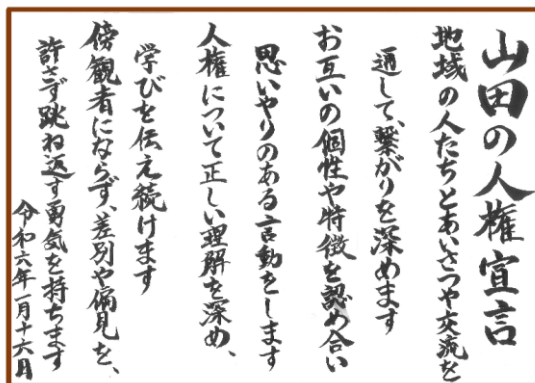
- 限られた時間の中で、しっかりと自分の考えと、他者の考えを融合して発表していた。
- 自分のことだけでなく、他人のことも感じようとするようになったことに成長を感じた。
- 子供たちが先導して話し合いを進めたり、意見を出し合ったりして、学校で学んでいることをしっかりと頭と心で受けとめているんだなと思った。

【参観した教職員】

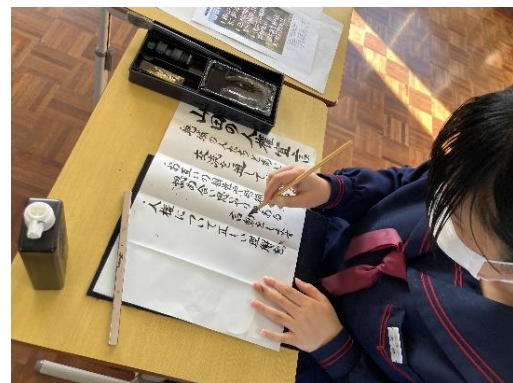
- 地域の方、保護者の参加もあり、日頃から連携がとれていることが分かり、また、自分の思いを伝えられる姿がとてもよかった。また、理由までしっかり伝えようとする姿が見られた。
- 生徒・保護者・地域の方が、それぞれに意見を出し合い、その意見を認め合い、尊重し合っている素晴らしい空間を50分も見られ幸せだった。思春期の中学生がこんなにも自分の意見を述べられるこの山田中の雰囲気は、日頃の先生方が、子供たちに温かく接しているからではないかと、改めて思った。

5 山田の人権宣言

公開授業において各グループから出された宣言文に入りたい言葉やフレーズなどがたくさん出されました。それを、次時の事後学習や12月の人権旬間での人権学習において、①地域とのつながり、②相手との関係、③自分自身として、④正しい知識と学習、⑤差別や偏見に立ち向かうの5項目に整理しました。その後、③と④を統合した4項目に再整理したうえで、生徒会本部と職員がそれぞれ整理された項目にそって言葉を精選しながら文としてつなぐ作業を、やり取りを繰り返しながら行いました。その作業の中で、絶対に外せない言葉やフレーズや込めた思いを再確認しながら、大事なポイントを外さないように気を付けました。



【生徒により揮毫された人権宣言】



【人権宣言を揮毫する生徒】